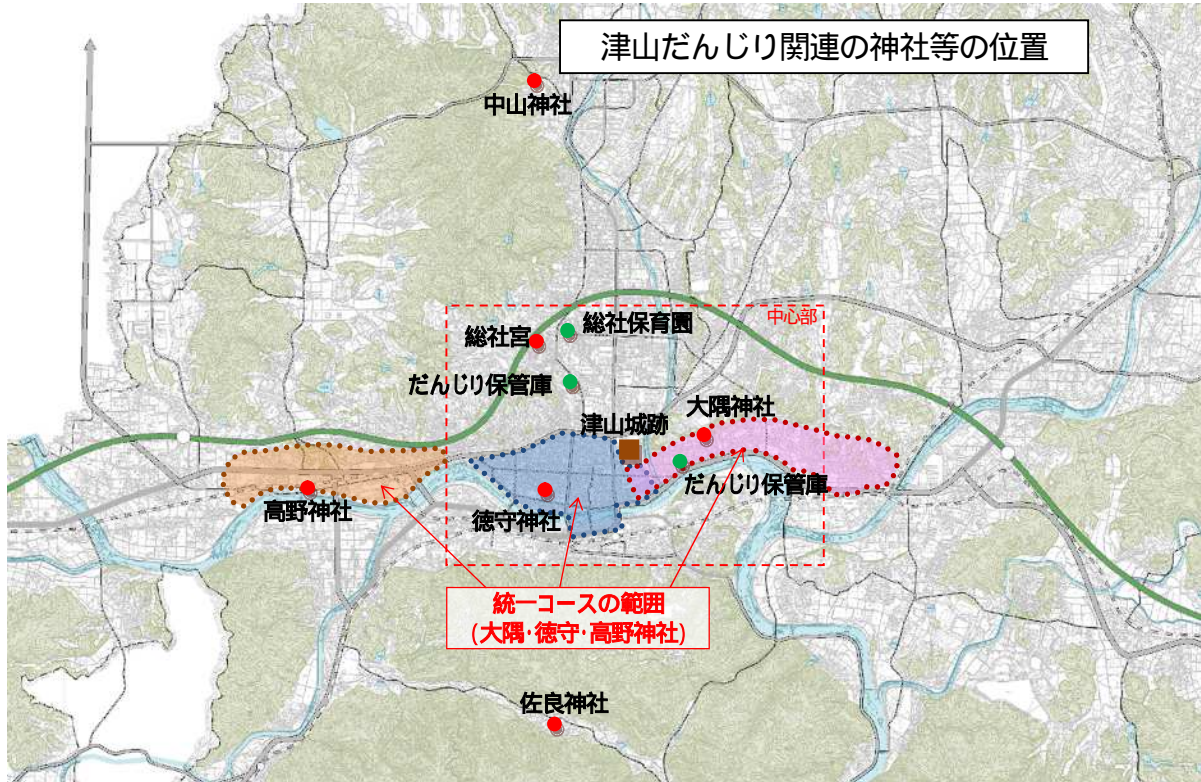


2 - 3 津山の維持及び向上すべき歴史的風致

津山だんじりに見る歴史的風致



津山まつりの行われる周辺環境の概要

津山には地域の伝統を守り伝える祭りが生活の中に息づいている。市内各地の祭りは、70 数社に及び神輿やだんじりが巡行する。

その中で、10 月に開催される、総鎮守の徳守神社、東の大隅神社、西の高野神社を中心とした祭りの総称が「津山まつり」である。

津山まつりの行われる津山城下においては、酒造、鍛冶、和紙製造等の伝統的な産業が継承されており、新酒の季節の酒の薫や鍛冶屋から聞こえる鍛造の音など、伝統的な生活・生業が営まれている。

また、津山まつりで使われる神輿の制作、修理は代々神仏具師が行っており、現在でも、2 店舗が津山城下で開業している。

各町内で守り受け継いできた県指定重要有形民俗文化財の津山だんじりが、徳守神社に 20



【城東・出雲街道を練る だんじり】



【中心部商店街を練る だんじり】

臺、大隅神社に7臺あり、飾り山車(だし)とも呼ばれる。昭和になり新造されただんじりを併せると約50臺になる。これらのだんじりが、城下町時代の町並みや寺院群、近代化の時代の建造物等が残る良好な市街地環境の中を、多くの市民や子供たちと共に練り歩く。

津山だんじりの歴史

総鎮守徳守神社の祭礼は、初代藩主森忠政が慶長9年(1604)に社殿を増宮した際に氏子達が練り物を出したことに始まる。寛文7年(1667)には24町が練り物を出したがいざこざが発生し市中の練り物が禁じられた。その後、松平宣富が津山城主の宝永3年(1706)に復活した。宣富は、徳川家一門でも権威ある家筋であったことから、祭りは特に賑わった。

宝永4年(1707)には大隅神社の祭礼にも練り物が出され、以後、恒例となった。

高野神社は安閑天皇2年(535)に鎮座したといわれる美作二宮である。城下二社の秋祭りの総称だった「津山まつり」に加わったのは昭和30年(1955)からである。

津山だんじりの略歴

明和5年(1766)	京町、元魚町、鍛冶町、坪井町が「家臺」を出す。
寛政4年(1792)	元魚町、鍛冶町が「藝臺」を出し子供2、3人がその上で踊る。
文化7年(1810)	船頭町が大小の提灯を付けた台を担ぎ、二階町は同様の車付き台を引き出し、京町、新魚町が子供を乗せ太鼓をたたかせる現在の「津山だんじり」の原型ともいえる「神輿太鼓」を出した。
文政3年(1820)	宮脇町の簾珠臺(現存する最古の「津山だんじり」)が造られる。
文政9年(1826)	大隅神社の祭礼に中之町から初めて「神輿太鼓」が出た。
天保10年(1839)	徳守神社祭礼に車付きの「神輿太鼓」を二階町が出す。
天保12年(1841)	伏見町、材木町からも、彫り物の付いた現在の「津山だんじり」に続く「神輿太鼓」が登場。

津山だんじりの個性

松平宣富をはじめ、松平歴代藩主やその家族も度々津山城の一角の「赤座屋敷」から祭りを見物した。第5代藩主康哉は宮川門を開け町民を城内に引き入れ、第8代藩主斉民は城内で祭りに加わるなど、当時としては異例ともいえる、藩主と町方が身分を超えともに祭りを楽しんだ。

10月の津山まつりの際には徳守神社や大隅神社のだんじりが統一行動し、津山城跡の南、赤座屋敷や宮川門の跡付近の観光センターに集結する。現在も城下町時代と同じ場所で、多くの人が祭りやだんじりを楽しんでいる。

天保13年(1842)祭りに出動するだんじり数に制限が設けられ、徳守神社が6基、大隅神社が2基との藩命が下された。この時の制限が、隔年、3年ごとなどの出動間隔として残っている。現在は各町内会が出動の有無や間隔を自由に決めているが、

結果的に各町内が経済的にも無理をせず、だんじりの伝統が長く受け継いできていることに大きな役割を果たしている。

子供を大切にする津山だんじり

簾珠臺（宮脇町）をはじめ全てのだんじりに、宵、本祭りとも子供が乗る。これは地域の将来を担う子供たちを大切にする津山の200年ほど前から続く伝統である。

明和5年(1766)に京町、元魚町、鍛冶町、坪井町が「家臺」を出し、寛政4年(1792)には元魚町、鍛冶町が「藝臺」を引き出し子供2、3人がその上で踊ったとある。そして文化7年(1810)徳守神社の祭礼に船頭町が大小の提灯を付けた台を担ぎ、二階町は同様の車付き台を引き出し、神事の供として京町、新魚町が子供を乗せ太鼓をたたかせる現在の「津山だんじり」の原型ともいえる「神輿太鼓」を出した。



【子供を大切にする津山だんじり】

文政3年(1820)には現存する最古の「津山だんじり」宮脇町の簾珠臺が造られる。

一方、大隅神社は同9年(1826)の祭礼に中之町から初めて「神輿太鼓」が出たのを皮切りに、同12年(1829)に東新町、天保元年(1830)の西新町と続く。

津山まつりに参加するだんじりの一覧 ()内は町内会名

大隅神社	文化財 7	松栄臺(東松原) 鳳凰臺(古林田) 龍鷹臺(東新町) 龍宝臺(西新町) 勢龍楼(中之町) 麒麟臺(勝間田町) 玉獅子臺(玉琳)
	他 4	八幡臺(川崎) 太田 金鳳臺(兼田) 上之町七丁目
徳守神社	文化財 20	巻龍臺(伏見町) 紅葉臺(京町) 桜若(河原町) 麟龍臺(船頭町) 鯨若臺(小性町) 雙龍臺(吹屋町) 飛龍臺(新魚町) 鶴龍臺(二階町) 麒麟臺(元魚町) 隼臺(新職人町) 群龍臺(戸川町) 龍虎臺(下紺屋町) 錨龍臺(鍛冶町) 龍珠臺(坪井町) 簾珠臺(宮脇町) 鰻若臺(西今町) 鳳龍臺(安岡町) 龍輦臺(福渡町) 東雲臺(堺町) 錦亀臺(茅町)
	他 4	翔龍臺(西松原) 昭和龍(昭和町) 南新丸(南新座一丁目) 鉄砲町
高野神社	他 13	和天台(大和町) 龍櫻臺(桜町) 松龍臺(松原上) 松栄臺(松原中西) 松長放兼園(松原中) 二宮山西 松原北 俵田 大東 旭 グンゼ町内会 松南 さくら台